

今年1月、大雪山系で

雪は天からの贈り物

ここ数年の間ではまれにみる早い冬の到来となった今年の11月。北海道で生活している者にとって冬期間の雪は切っても切れない存在で厄介（ほとんどの人がそう感じているかもしれないが…）でもあるが、僕にとってはまさに「天からの贈り物」だ。

特にここ、内陸の東川町周辺に降り積もる雪は乾燥していてとても軽い。手で握った雪は固まることもなくポロポロと崩れていき、両手ですくう雪は息を吹きかけるとパツと吹き飛んでしまう。そんな軽くて乾燥した雪が旭岳や周辺の山間部では一晩で50センチメートル近くも降る日がある。そんな日は町内市街地の自宅の前も相当量の降雪となり、山に向う前に車に降り積もった雪を下ろし玄関から駐車場への除雪をしなければならない。この時ばかりは「厄介だな」と思ってしまうが、朝のエクササイズと考えれば良い運動かもしれない。

乾燥した雪が一晩で数十センチも、しかもわりとコンスタントに降るのは世界的に見てもまれだと僕は思う。もちろん、広い地球上にはそんな場所はほかにもあるだろうと思う。ただ、道路が未整備で行くことが難しい場所だったり、まだ知られていない場所かもしれない。



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人たちのリレーしています。

い。日本は全体に道路インフラが整備されていて、文化的にも興味深い国として、世界各地からこんなまれな場所を訪れる人が多くなっている。



乾燥しているふわふわの深雪を求めてスキーヤーやスノーボーダーが多くやってくる。目的はもちろん、ジャパングオリティーのパウダースノー（粉雪）だ。ここ数年の間に「JAPOW」（ジャパウ、日本のパウダースノーという意）という造語まで出来た。1月、2月に北海道を訪れることが、ある種のステータスになっているようなのだ。

雪国での生活を考えると雪は厄介な存在だ。しかしバックカントリースキー、スノーボードのガイドをしている僕にとっては貴重な資源だし、観光資源としても貴重なものになっていると感じる。もう一つ、いつも蛇口から飲んでいる地下水も雪の恩恵だということを忘れてはいけない。

Natures 中川伸也



以前、日本の大学で教えていたとき、学生たちから「これをどうやって着るの」とよく聞かれました。これとはベトナムの民族衣装アオサイのことです。アオサイは、見た目から、ワンピースに近いものだと思うかも知れませんが、実際はワンピースとはまったく違い、もっと美しく、女性的なラインを見せられる衣装です。

アオ（Ao）は上衣の一種を意味し、サイ（Cai）はベトナム語で「長い」を意味する言葉です。つまり「長い上着」となります。上衣は前合わせの立ち襟で、体に沿った細身の仕立てであり、丈は足首にかかるほど長いものですが、深いスリットが側面にあるため動く邪魔にはなりません。下衣は上衣と逆に直線的な裁断の長いズボンの仕立てです。

アオサイは基本的にオーダーメイドで購入するもので、16力所の採寸をして作ります。ぴったりしたデザインなので、自分の体にぴったり合ったものではないときれいに見えません。



ベトナム少女のアオサイ姿

なので、一度仕立てたアオサイは、太ると着られなくなるため、ほっそりした体格を保つことがベトナム女性の風潮となっています。

高校学校や一部の大学では、純白のアオサイを女子の制服にしているところがあります。学校だけではなく、ベトナムの航空会社、銀行などの女性社員の制服となっています。ほかにはお正月、結婚式など、大切なイベントの際に、正装として着用されています。

着るのはとても簡単で、3分もあれば着ることができるので、アオサイを試着したい方、来年ベトナム語文化講座に、ぜひお気軽にお越しくださいね。



ベトナムの民族衣装アオサイ

国際交流員 トウ・トンヌー